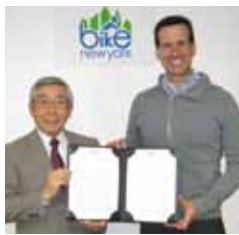


ドクトル・加藤の 人間エンジンの話

番外編

ニューヨーク (NY) ファイヴボロウズ バイクライドに参加して



ドクトル・加藤 (加藤元彦)
日本サイクリング協会副会長
兼東京サイクリング協会会長。
加藤副会長から谷垣禎一会長の
親書がバイクニューヨーク主催
者代表に手渡された。

東日本大震災で非公式の参加となった5月1日のNYバイクライドは、朝5時半、パークセントラルからバイクライドの出発点、マンハッタン南端「バッテリーパーク」へ地下鉄で行くことから始まった。地下鉄に自転車を持ち込めるNYでは参加するライダーが自転車ごと乗ってくる、羨ましい！ 天気は晴れだが肌寒い。レンタバイクステーションでTRECのマウンテンまがいのアツプライト・ポジションの自転車を、「お前さんのサイズはこれ！」と渡される。ハンドルを下げ、分厚いサドルも下げ、日本から持参したハーフレップを付けたペダルに取り替え試乗してみる。変速は円滑、よく整備してあるが重い！



レンタバイクステーションで思いのほか時間を費やした。7時半ごろの出発地点の後方に並ぶが、なんと9時まで走れなかった。3万2千台のバイクが参加するのだから、自分のいる場所がどこなのか見当がつかないのも仕方ないことだ。

9時チョット過ぎに前方のバイクが走り出した。チャーチストリートから「マンハッタン」の「6thアヴェニュー」を一気に北上する道路は交通規制され、広々とした道幅一杯にバイクが走る様子は圧巻！

コースは「マンハッタン」↓「ブロンクス」↓「マンハッタン」↓「クイーンズ」↓「ブルックリン」↓「スタテンアイランド」。という5つの自治区(5BORO)をまわる42マイル。スタートしてまもなくすり抜けるセントラルパークの緑。島と島をつなぐ雄大なブリッジ、コース最後の大橋「ヴェラザノナロウスブリッジ」の右側に広がる「自由の女神」と「マンハッタン」の圧倒的な高層ビル群。そしてホスピタリティあふれる主催者の配慮など、いくつもの楽しい思い出を心に刻みながら、ゴールの「スタテンアイランド」の乗船場へ着いた。この「42miles of car-free cycling」別名「ニューヨーク ファイヴボロウズ バイクライド」の42マイルを無事走破した。

私はレンタバイクを返し、17時30分発のフェリーに乗船。フェリーはバイクとライダーを乗せて出発点の「バッテリーパーク」へ。

翌朝、ホテルの窓から見下ろすと、昨日の朝の自転車の大群が夢のように、街はクルマと人で溢れていた。